

中津川市地域医療実習 感想文

鹿兒島大学 3年生 氏名 田村

今回初めて、中津川市の医療実習に参加させて頂きました。九州出身で鹿兒島大学に在籍している私にとって、岐阜は勿論の事、中津川は初めて伺う場所であり全てが新鮮でありました。

初めに、私がこの医療実習に申し込もうと考えた理由ですが、医学部でのこれまでの授業は座学で知識のインプットがメインであり、早く現場に出て医療関係者の方が働かれている姿を見たい、患者さんとの対話を通して、どんな医療が必要とされているのか生の声を聴きたいという思いがあったためです。また、私は地域コミュニティの活性化にも関心があり、その中で医療・介護・行政が連携して一人の患者さんを切れ目なく支え、住み慣れた地域で安心して生活を送ってもらおうという地域包括ケア構想に興味を抱いたためでもありました。

そして、今回の医療実習ですが、まさに上記の私の求めていたものが詰まった 5 日間でした。実習先としては、「阿木診療所」、発達支援センター「つくしんぼ」、社会福祉法人「シクラメン」、及び市役所の高齢支援課訪問指導など、地域包括ケアに関する施設を網羅的に訪問することが出来ました。実習は刺激に満ちた日々であり、気づきや経験したことは枚挙にいとまがありません。そのなかでも数点ピックアップして以下に記載します。

まず、阿木診療所では所長の伴先生及び、山田先生の下で実習を受けました。お二人とも総合診療科の医師であり、医師としてのキャリアの築き方から、地域医療における総合診療医の役割やそのやりがいなど、私たち実習生の質問に対して丁寧にお答えいただきました。また、外来診察に陪席させて頂くとともに、患者さんに問診し医療に対する要望などを質問をする機会も頂くことが出来ました。この実習を通じて、診療所のような地域に根差した病院に来る患者さんの多くは、その地域特有の疾患や症状を持っていることが多いという気づきを得ることが出来ました。また、患者さん一人一人にじっくりと時間をかけ、症状のみならず、日常生活や困りごとなどまで聞いている先生の温かな態度を拝見し、私もこのような態度で患者さんに臨みたいと感銘を受けました。

次に「つくしんぼ」では、1 歳から小学校入学前までの年齢のお子さん保育士の方の療育に参加させて頂きました。ここでは子供の療育は何よりも遊んで楽しんでもらうことが重要であり、遊びの中で学んでいくのだということ、また、一口に同じ障がいを持った子供さんといっても、誰一人として同じ症状の子はおらず、特徴は異なり性格や好きなものは様々なのだという、忘れてはならないことを再確認することが出来ました。医学部の講義では疾患に焦点を当ててる中で、患者さんの“顔”は捨象される傾向にあるため、疾患は

患者さんの持つ一側面に過ぎないのだという基本を胸に刻む大切な機会となりました。また、親御さんに直接、医療や医師に対して望んでいることを伺うことができ、これから私がどのような医療を実践したいか、その手がかりを得ることもできました。

最後に「シクラメン」では、通所型サービスに参加させて頂き、どのようなサービスを受けているのか学ぶ機会を得ました。また、私たちから「高血圧」に関するミニレクチャーをさせて頂く機会も頂きました。ここでの実習を通し、デイサービスは楽しく過ごすだけでなく、利用者の自立支援のため改善に向けて関わる意識が重要である事、また地域コミュニティとのつながりを如何に維持しながら利用してもらうか、そのバランスを考えるのも必要であると知ることが出来ました。また、志水さんから阿木地区の地域包括ケアシステムである「ごちゃませ会議」について概要を説明していただきました。講話を通じて、立ち上げから課題の抽出、解決のための活動まで、どのような経過で医療・介護・行政が連携し、地域の住民を巻き込み、意見を反映していったのかを学ぶことが出来ました。

以上のような本実習で得た貴重な気づき・経験を持ち帰り、私が暮らしている地域での地域医療はどうなっているのか、さらに学びを深めていきたいと考えております。

末筆ながら、阿木診療所の伴先生、山田先生、中津川市地域総合医療センターの鈴木様、内木様、シクラメンの志水様を筆頭に、地域医療実習でご指導いただいた皆さま方には大変貴重な機会を頂きましたこと厚く御礼申し上げます。有難うございました。